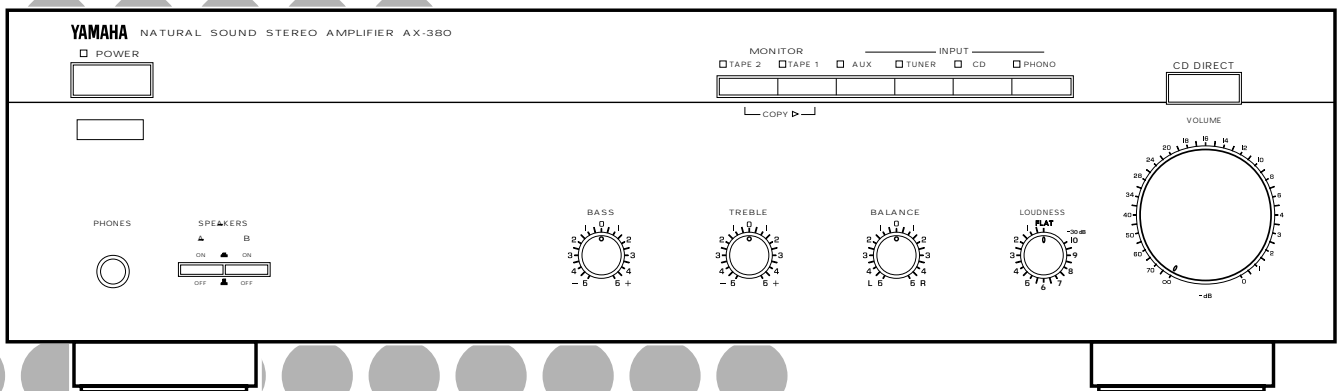


YAMAHA

AX-380

NATURAL SOUND STEREO AMPLIFIER

取扱説明書



このたびは、ヤマハステレオプリメインアンプ AX-380 をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

AX-380 の優れた性能を十分に発揮させるとともに、末永くご愛用いただくために、この取扱説明書をご使用の前に必ずお読みくださいますようお願いいたします。

お読みになったあとは、保証書とともに保管してください。

目次

| | |
|------------------|---|
| 使用上のご注意 | 3 |
| 各部の名称とはたらき | 4 |
| 接続のしかた | 6 |
| 操作のしかた(再生) | 8 |
| 操作のしかた(録音) | 9 |

| | |
|---------------------------|----|
| リモコンについて | 10 |
| 参考仕様 | 10 |
| 故障かなと思ったら | 11 |
| ヤマハホットラインサービスネットワーク | 12 |

特長

●コンティニアスラウドネスコントロール装備

聴いている音量レベルに応じて補正量を連続的に可変することができ、ラウドネスコントロールを装備しています。

●CD ダイレクトスイッチ搭載

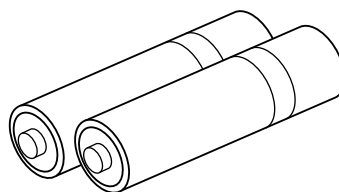
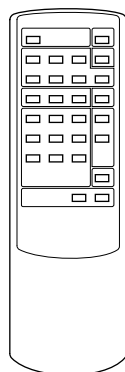
コンパクトディスクのハイクオリティなサウンドを、より劣化の少ないピュアな音で楽しんでいただくため、CDプレーヤーとパワーアンプ部をプリアンプのみで直結するCD ダイレクトスイッチを装備しています。

●集中操作に便利な多機能リモコン

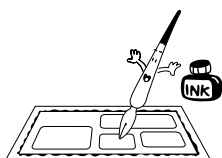
本機の操作はもちろん、本機に接続した他の周辺ヤマハ機器にも対応できる多機能リモコンを付属しています。

ご使用の前に

■付属品を確認してください



保証書の手続きを



お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万が一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、十分ご注意ください。



これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

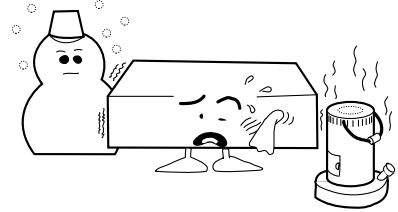
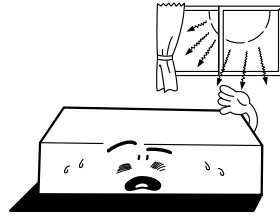
音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

使用上のご注意

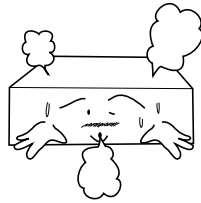
高温 低温はさけて!

窓際や直射日光の当たる場所 暖房器具のそばなど極端に暑い場所(周囲温度40 以上) 温度の特に低い場所(周囲温度 -5 以下) 湿度の多い場所(湿度90%以上)は、さけてください。



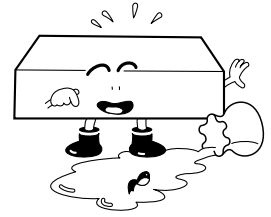
設置場所について

本機の放熱を妨げるようなラックの中には設置しないでください。また、不安定な台の上などもさけてください。



ほこり 水気をさけて!

ほこり 水気の多い場所はさけてください。本機の上に、花瓶や金魚鉢など水の入ったものは置かないでください。



薬物厳禁

ベンジン、シンナーなどの溶剤でふくと、変質したり変色します。薬物の使用はさけてください。掃除をするときは、柔らかい布でカラダ拭きしてください。また接点復活剤は金属部分以外に付着しないようにご使用ください。



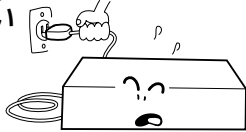
長期間使用しないときは

旅行や外出などで留守にされる場合は、安全のために電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。不慮の事故で火災の原因になります。



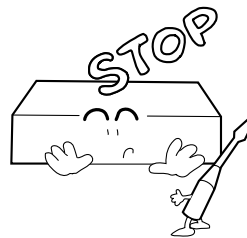
引っぱらないで!

電源コードやピンコードを抜くときは、コードを引っぱらないで必ずプラグを持って抜いてください。



開けないで!

内部に手を入れると危険です。ケースは開けないでください。



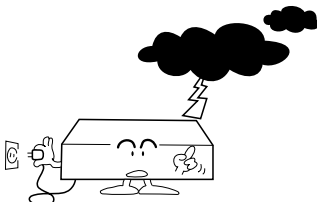
こわれた?

11ページの「故障かなと思ったら」をご覧ください。



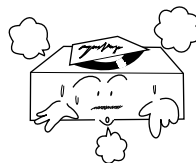
雷が近づいたら

早めに電源プラグをコンセントから抜いてください。



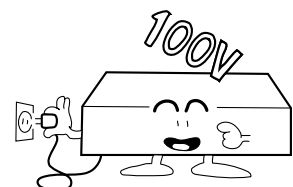
セット上面の通風孔をふさがない

放熱を妨げないため、セット上面の通風孔の上に敷き物や、レコードなどを絶対に置かないでください。



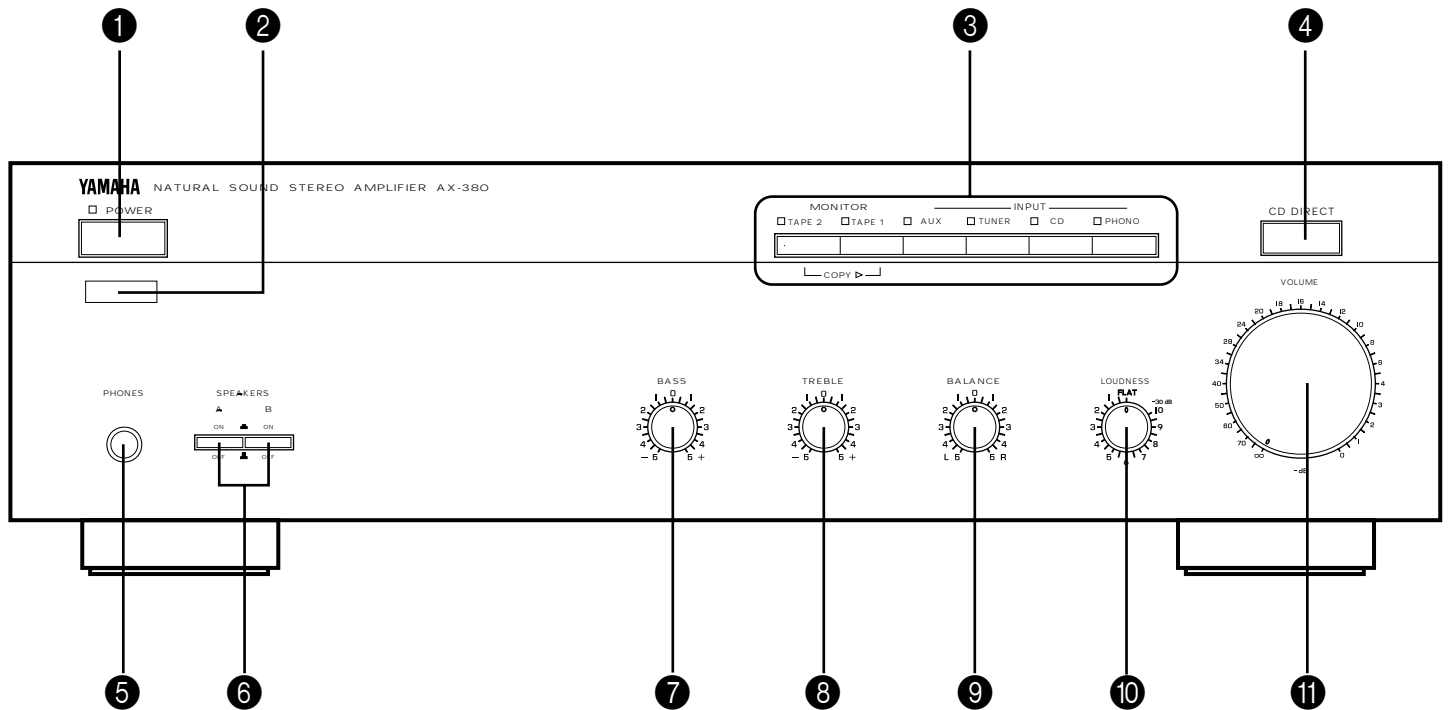
国内のみ使用可

家庭用電源コンセント AC100Vに差し込んでください。

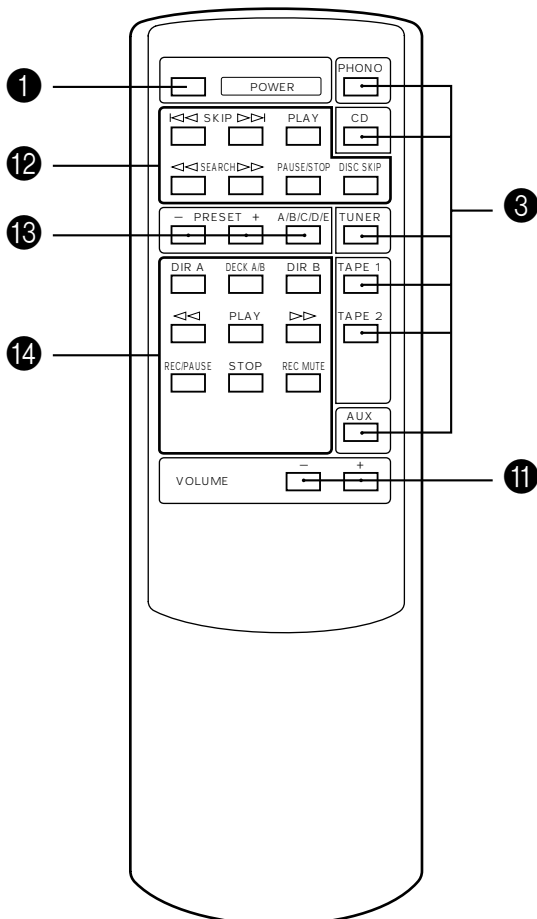


各部の名称とはたらき

フロントパネル



リモコン



① 電源スイッチ (POWER)

本機の電源を入/切します。電源が入るとインジケータが点灯します。

電源を入れるときは、ボリュームコントロールを必ず最小の位置 (-) にしておいてください。

電源を入れてから数秒間は、スピーカー保護回路がはたらき、音は出ません。

② リモコン受光部

付属のリモコンからの信号を受ける窓です。

③ インプットセレクター

再生したいプログラムソースを選択するスイッチです。押すと選択したプログラムソースのインジケータが点灯します。

PHONO: レコードプレーヤーを再生するとき。

CD: CDプレーヤーを再生するとき。

TUNER: チューナー (FM/AM) を再生するとき。

TAPE 1: TAPE 1 端子に接続したテープデッキを再生するとき。

TAPE 2: TAPE 2 端子に接続したテープデッキを再生するとき。

AUX: ビデオデッキ・レーザーディスクプレーヤーなどAUX 端子に接続した機器の音を再生するとき。


④ CD ダイレクトスイッチ (CD DIRECT)

このスイッチを押すと、インプットセレクターの選択に関係なくCDが優先され再生されます。もう一度押すと解除されます。

信号経路はバス、トレブル、バランス、ラウドネスなどの回路がパスされ、極めてシンプルな回路構成となるため、よりハイクオリティな、CDサウンドがお楽しみいただけます。

⑤ ヘッドホンジャック (PHONES)

ヘッドホン接続する端子です。

ヘッドホンのみで聴くときは、スピーカースイッチのA, Bを両方とも“OFF” () にしてください。

深夜のプライベートリスニングの際は、ヘッドホンのご使用をお勧めします。

⑥ スピーカースイッチ (SPEAKERS)

本機に接続されたスピーカースystem (A, B) を選択するスイッチです。A のボタンを押すと A 端子に接続されたスピーカースystem から、B のボタンを押すと B 端子に接続されたスピーカースystem から音が出ます。A, B 両方のボタンを押すと A, B 両方のスピーカースystem から音が出ます。

⑦ バスコントロールツマミ (BASS)

低音域を調整するツマミで、右 (+) に回すほど低音域が強調され、左 (-) に回すほど減衰されます。“0” の位置で特性はフラットになります。

例えば、バスクラムの音に迫力を出したいときに便利です。

⑧ トレブルコントロールツマミ (TREBLE)

高音域を調整するツマミで、右 (+) に回すほど高音域が強調され、左 (-) に回すほど減衰されます。“0” の位置で特性はフラットになります。

例えば、ハイハットシンバルのような歯切れの良い音を出すときに便利です。

⑨ バランスコントロールツマミ (BALANCE)

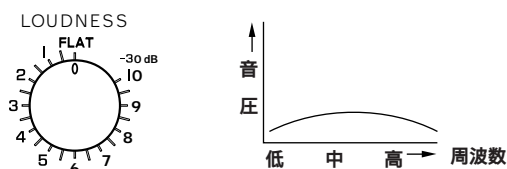
左右のスピーカーからの音量バランスを調整するときに使います。ツマミを右(左)に回しますと左(右)の音が小さくなります。

⑩ ラウドネスコントロールツマミ (LOUDNESS)

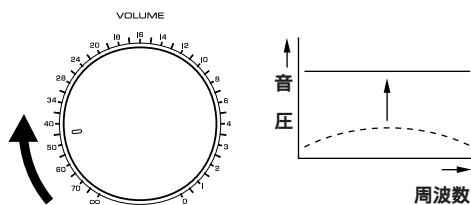
人間の聴感、音量が小さくなればなる程、低音と高音が聴えにくくなるという特性があります。これを補正するのがラウドネスですが、本機では聴いている音量レベルに応じ、補正に必要な量を連続的に可変することができるので、どの音量レベルでも低域から高域まで、不自然なく再生することができます。

ラウドネスの操作方法

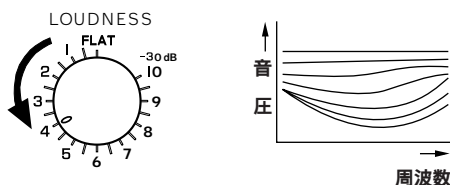
- 1 ラウドネスコントロールツマミをFLATの位置にします。



- 2 低域から高域までのバランスが最適になるまでボリュームツマミで音量を上げます。



- 3 ボリュームは動かさずに、ラウドネスコントロールツマミを回して、実際にお聞きになる音量まで下げます。音量を下げるに従って補正が強まります。



⑪ ボリュームコントロール (VOLUME)

音量を調整します。右に回すほど音量が大きくなり、左に回すほど音量が小さくなります。

リモコンでは、“+” キーを押すと音量が大きくなり、“-” キーを押すと小さくなります。キーを押すと同時に、フロントパネルのボリュームコントロールが連動して回ります。

電源スイッチやインプットセレクターなどを操作するときや、レコードに針を上げ下げするときは、ボリュームコントロールを必ず最小の位置 (-) にしておいてください。

⑫ CD操作キー (CD)

ヤマハのリモートコントロール対応のCDプレーヤーを操作するキーです。CDプレーヤーのリモコンに表示されているキー名称と同じはたらきをします。

SKIP ◀◀: 曲の頭に戻ります。

SKIP ▶▶: 次の曲の頭に進みます。

PLAY: 演奏をスタートさせるキーです。

SEARCH ◀◀: 早戻しします。

SEARCH ▶▶: 早送りします。

PAUSE/STOP: 1度押すと一時停止し、もう1度押すと演奏が停止します。

DISC SKIP: CDチェンジャーのみに対応します。押すたびにディスク番号が変わり、表示された番号のディスクが選ばれます。

詳しくは、CDプレーヤーの取扱説明書をご参照ください。

⑬ チューナー操作キー (TUNER)

本機または、ヤマハのリモートコントロール対応のチューナーを操作するキーです。

A/B/C/D/E: プリセットのグループ(A/B/C/D/E)を選択します。

PRESET: プリセットされた放送局を選局します。

⑭ テープデッキ操作キー (TAPE)

ヤマハのリモートコントロール対応のテープデッキを操作するキーです。

テープデッキのリモコンに表示されているキー名称と同じはたらきをします。

DECK A/B: ダブルデッキのデッキ A とデッキ B の選択をします。

DIR A: デッキ A のテープ走行方向を選択します。(または、オートリバーステープデッキのテープ走行方向を選択します。)

DIR B: デッキ B のテープ走行方向を選択します。

PLAY: 再生をスタートします。

◀◀: ◀◀ 方向の早送りをします。

▶▶: ▶▶ 方向の早送りをします。

STOP: 再生または、録音の停止をします。

REC MUTE: 録音中に無録音部分を作るときに押します。

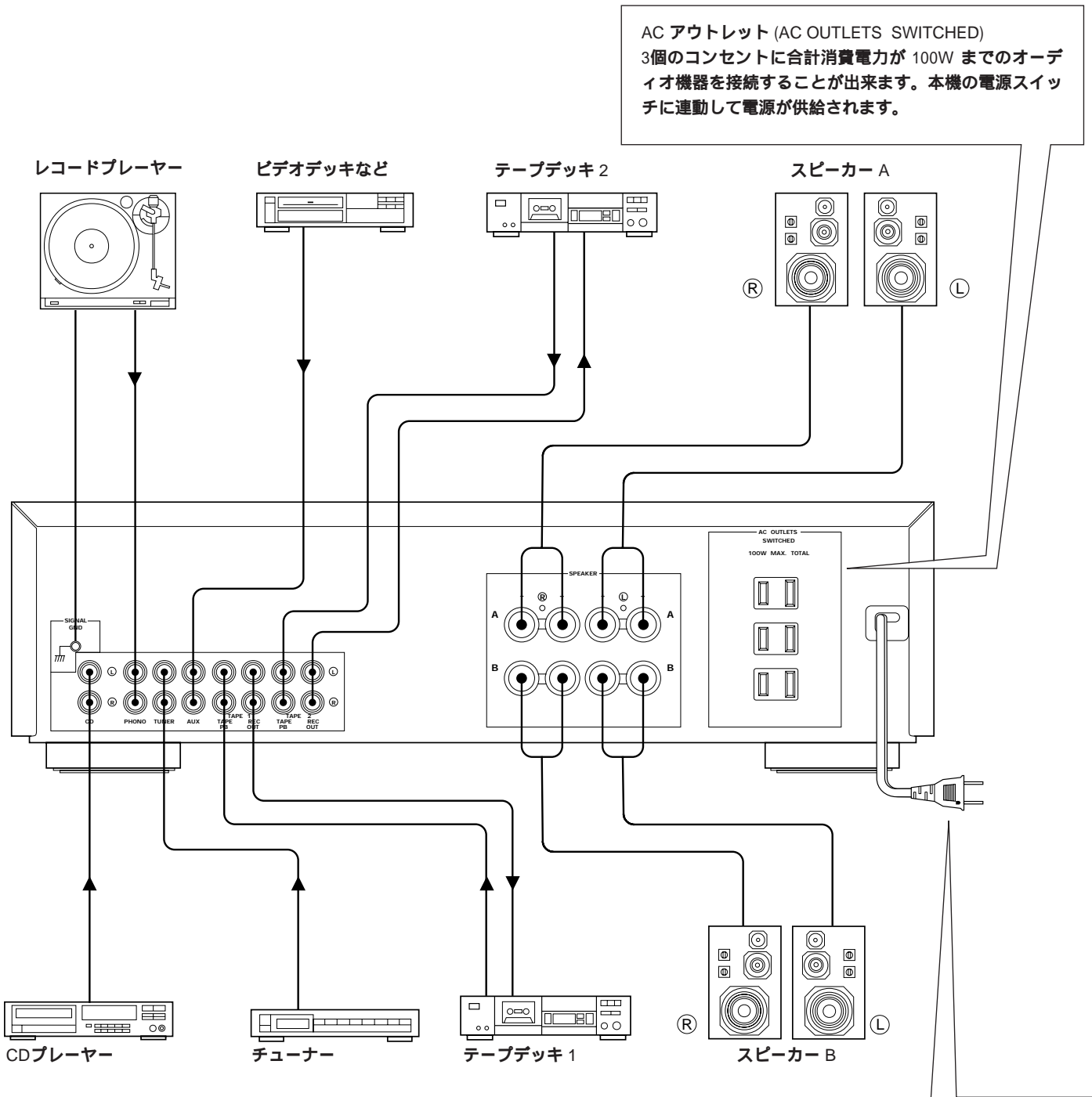
REC/PAUSE: 録音一時停止状態になります。

詳しくは、テープデッキの取扱説明書をご参照ください。

接続のしかた

- 接続の際は、本機および接続する機器の電源を必ず“OFF”にしてから行ってください。
- 接続する機器によっては端子名が異なることがあります。接続する機器の取扱説明書もあわせてご参照ください。
- 入・出力端子を接続する場合、市販のピンプラグコードをご用意ください。

- 接続するときは、各機器の L (左チャンネル)、R (右チャンネル)を確認し、また、スピーカー接続の場合は、極性 (+、-) を間違えないよう確認して、確実に接続してください。
- 接続に誤りが無いことを確認してから、本機の電源コードを AC コンセントに接続してください。
- 本機が他の機器(テレビ、チューナー)などに影響を与えるようなときは、本機とその機器に影響の出ない距離まで離してください。



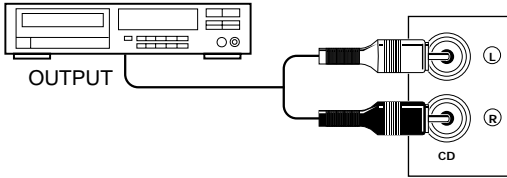
AC アウトレット (AC OUTLETS SWITCHED)
 3個のコンセントに合計消費電力が 100W までのオーディオ機器を接続することができます。本機の電源スイッチに連動して電源が供給されます。

電源コード
 電源プラグは AC100V の家庭用コンセントに接続してください。
 本機の消費電力は 120W です。
 本機の電源コードには、極性表示 (電源トランスの巻き始め側をプラグに **▶** マークで表示) がされています。極性を差し替えて音質が変わるようでしたら、お好みの極性でお使いください。

CDプレーヤー、チューナー、その他ビデオデッキなどの接続

CDプレーヤーは CD 端子に、チューナーは TUNER 端子に、その他ビデオデッキなどの音声出力を AUX 端子に、それぞれ L, R を正しく確実に接続します。

CDプレーヤー



レコードプレーヤーの接続

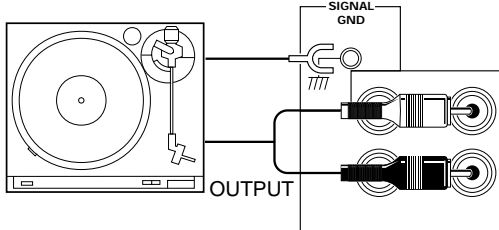
レコードプレーヤーの出力コードを PHONO 端子 L, R にしっかり差し込んでください。アース線は GND 端子に確実に接続します。

レコードプレーヤーによっては、まれにアース線を GND 端子に接続しない方がハムノイズが減少する場合があります。

SIGNAL GND 端子は他の機器を接続した場合の雑音の低減を図るためのものです。

安全アースではありません。

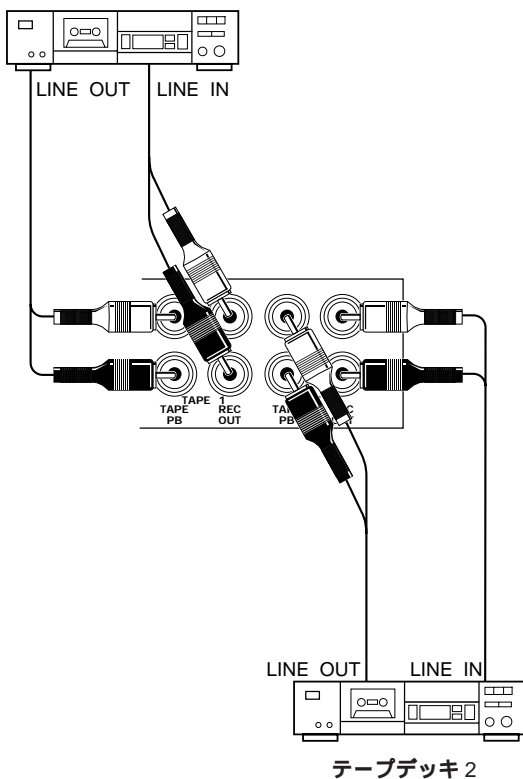
レコードプレーヤー



テープデッキの接続

デッキの LINE OUT (PLAY) 端子と本機の TAPE PB 端子を、デッキの LINE IN (REC) 端子と本機の REC OUT 端子をそれぞれ L, R を正しく接続します。本機では、TAPE 1、TAPE 2 端子にテープデッキが2台まで接続できます。

テープデッキ 1



テープデッキ 2

スピーカーコードの接続

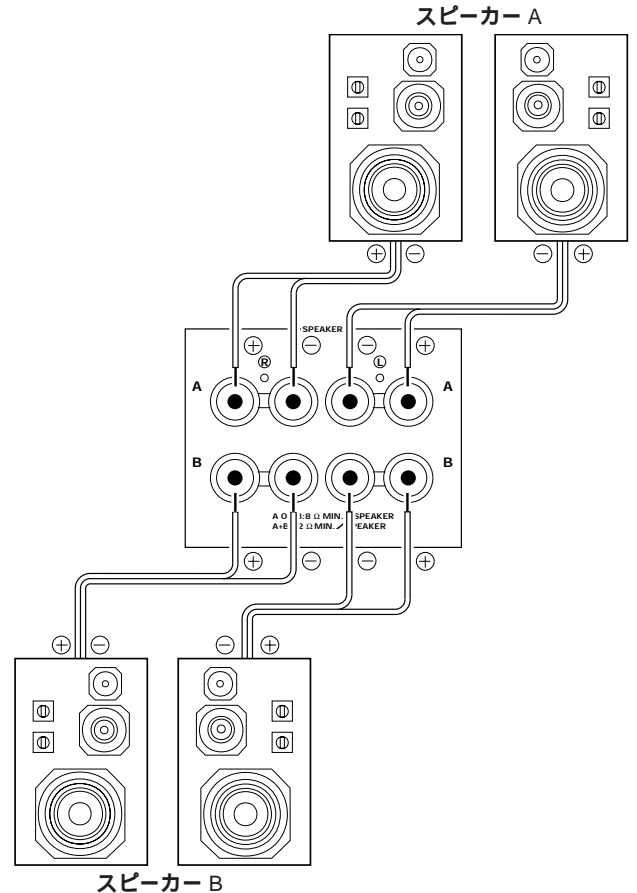
SPEAKERS A の R 側端子に右側スピーカーを、L 側端子に左側スピーカーを接続します。

アンプ側の + 端子からスピーカーの + 端子へ、アンプ側の - 端子からスピーカーの - 端子へ極性を間違いないよう確認して、スピーカーコードを接続します。

左右の接続や極性を間違えると、音が中央に定位せず、ステレオ感のない低音のそこなわれた不自然な再生音となります。

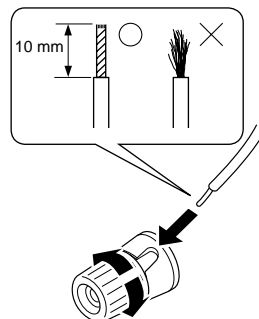
SPEAKERS B にも、SPEAKERS A と同様にもう一組のスピーカーを接続することができます。

スピーカー A, B 単独使用の場合は、インピーダンスが 6Ω 以上のものを、2 組同時使用の場合は、各インピーダンスが 12Ω 以上のものを使用してください。それ以下のインピーダンスのスピーカーを使用すると、本機が故障するおそれがあります。



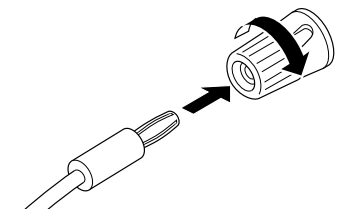
スピーカーコードの接続

スピーカーコードの先端の絶縁部を 10 mm 位はがしてください。芯線がバラけてショートしないよう、指でしっかりよじってから、スピーカー端子の穴に差し込み、締めつけてください。また芯線部分が穴からはみ出していないかどうかを確認してください。

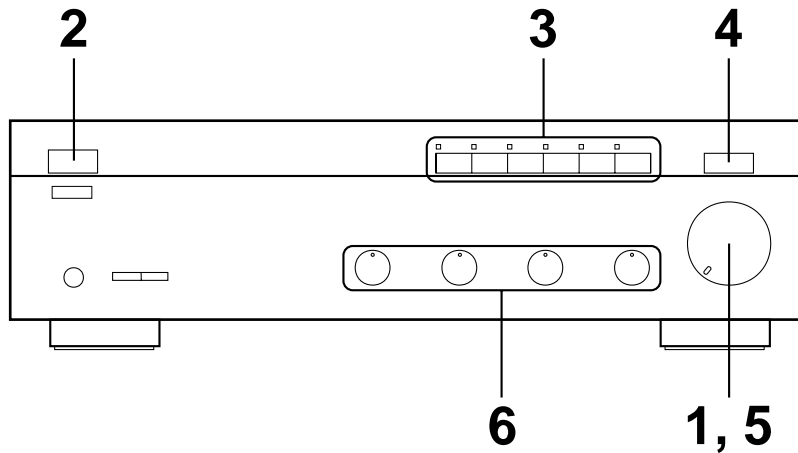


バナナプラグの場合

バナナプラグを使用する場合は、端子を強くしめてから差し込んでください。

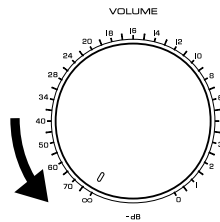


操作のしかた (再生)

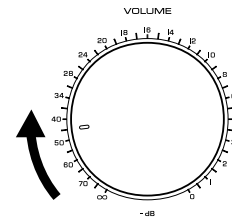


再生をする場合

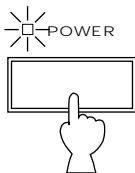
- 1** 本機のボリュームコントロールを“ - ” (最小)に合わせます。



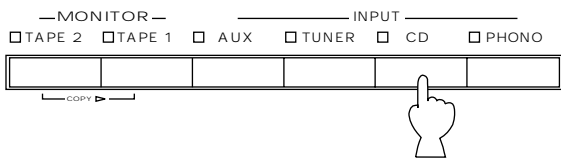
- 5** ボリュームコントロールで音量の調節をおこないます。



- 2** 本機ならびに、各機器の電源を“ ON ”にします。



- 3** インプットセクターで、再生したいプログラムソースの選択をします。



選択されたプログラムソースのインジケーターが点灯します。

- 4** インプットセクターで選択したプログラムソースの再生をします。

- 6** お好みに応じて、バス、トレブル、バランス、ラウドネスを使って音質調節をしてください。

インプットセクターの使用(手順3)について

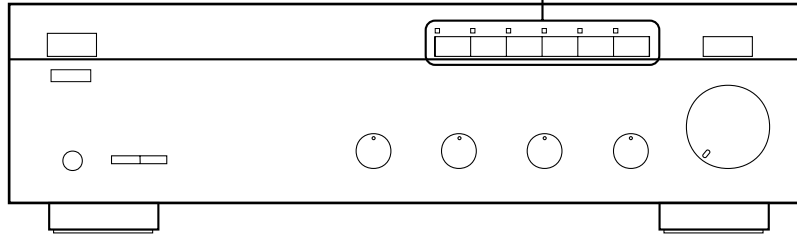
- AUX、TUNER、CD、またはPHONOを選択するときは、TAPE 1とTAPE 2のインジケーターが消灯するようにTAPE 1とTAPE 2のスイッチを押してください。
- TAPE 1とTAPE 2のインジケーターが同時に点灯した状態では、TAPE 2が優先されます。

ご注意

ラウドネスを設定したまま、CDダイレクトスイッチを押しますと、急激に大音量になることがあります。スイッチを押すときは、事前にボリュームを左に回し、音量を下げてください。

操作のしかた (録音)

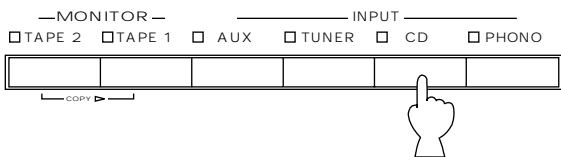
2, 5



録音をする場合

1 P. 8「再生をする場合」の、手順 1, 2 と同じ操作をします。

2 録音したいプログラムソースを、インプットセクターで選択します。



3 テープデッキを操作して録音を開始すると同時に、録音するプログラムソースの再生をスタートします。

4 プログラムソースが正しく再生されているかどうかをボリュームをあげて確認します。

5 録音をモニターする場合は、録音しているテープデッキをインプットセクターでえらびます。

上記の操作中、ボリューム、バス、トレブル、バランス、ラウドネス、CDダイレクトの設定や調節をしても、録音には影響ありません。

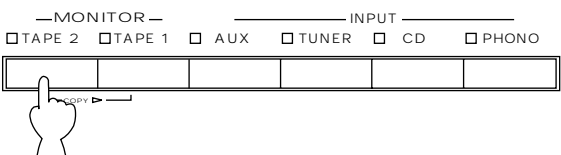
テープダビングをする場合

ダビングはデッキ 2 (TAPE 2) からデッキ 1 (TAPE 1) にのみできます。
(デッキ 1 からデッキ 2 へのダビングはできません。)

デッキ 1 はリアパネルの TAPE 1 端子に接続されたテープデッキ、デッキ 2 はリアパネルの TAPE 2 端子に接続されたテープデッキです。

1 P. 8「再生をする場合」の、手順 1, 2 と同じ操作をします。

2 インプットセクターで TAPE 2 を選択します。



3 テープデッキ 1 を操作して録音を開始すると同時に、テープデッキ 2 の再生をスタートします。

4 テープデッキ 2 が正しく再生されているかどうかを、ボリュームをあげて確認します。

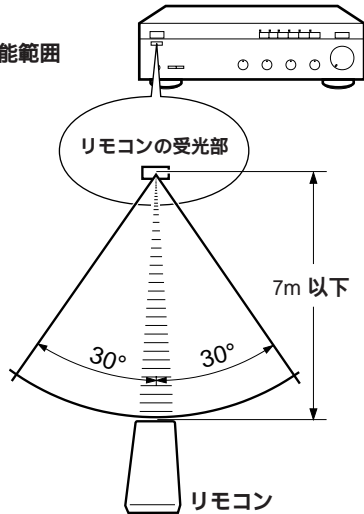
5 録音をモニターする場合は、テープデッキ 1 をインプットセクターでえらびます。

上記の操作中、ボリューム、バス、トレブル、バランス、ラウドネス、CDダイレクトの設定や調節をしても、録音には影響ありません。

リモコンについて

リモコン信号は直進性の高い赤外線を使っています。リモコンと本体受光部の間に遮蔽物が入らないようご注意ください。

リモコン操作可能範囲



●付属のリモコンは...

本機専用です。近くに他の機器が設置されていると、誤動作を起こすことがあります。リモコンによって誤動作をする機器があるときは、その機器の受光部をふさぐか、設置場所を変えてください。

●ていねいに扱ってください

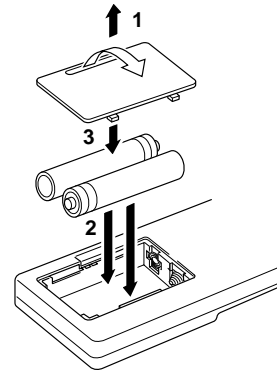
お茶や水をこぼしたり、落としたりしないでください。ストーブのそばや風呂場など、温度・湿度の高いところにも置かないようご注意ください。

●リモコン受光部に、直射日光や照明器具（インバータ蛍光灯など）の強い光が当たらないようご注意ください

強い光が当たっていると、リモコンが動作しなかったり、働きにくくなります。

●電池交換のしかた

- 1 リモコンの裏のふたをはずします。
- 2 単3型 (SUM-3) 乾電池を2個、プラス (+) とマイナス (-) の向きを、リモコンのケースの表示どおりに正しく入れてください。
- 3 電池をセットしたらカチッと音がするまでふたを閉めます。



電池交換の時期は？

リモコン操作できる距離が短くなってきたら電池が消耗しています。このときは、2本とも新しい電池に交換してください。

●乾電池についてのご注意

- ・単3乾電池をご使用ください。
- ・新しい電池と、一度使用したものを混ぜて使用しないでください。
- ・種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- ・電池のプラス (+) とマイナス (-) を金属片で直接つなぐこと (ショート) はしないでください。
- ・長い間リモコンを使わないときは、電池を取り出しておいてください。
- ・万一液もれが起きたときは、電池入れについた液をよく拭き取ってから、新しい電池を入れてください。

参考仕様

定格出力

| | |
|--------------------------------------|---------|
| 8Ω (20 Hz ~ 20 kHz, 0.04% THD) | 55W+55W |
| 6Ω (20 Hz ~ 20 kHz, 0.06% THD) | 60W+60W |

ダイナミックパワー (IHF ダイナミックヘッドルーム測定による)

| | |
|---------------------|-------------------|
| (8Ω/6Ω/4Ω/2Ω) | 78W/90W/110W/120W |
|---------------------|-------------------|

ダンピングファクター (20 Hz ~ 20 kHz, 8Ω)

| |
|--------|
| 100 以上 |
|--------|

入力感度/入力インピーダンス

| | |
|-------------------------|----------------|
| PHONO MM | 2.5 mV / 47 kΩ |
| CD/TUNER/TAPE/AUX | 150 mV / 47 kΩ |

最大許容入力 (1 kHz, 0.01% THD)

| | |
|----------------|-------|
| PHONO MM | 80 mV |
|----------------|-------|

ヘッドホン出力/出力インピーダンス (20 Hz ~ 20 kHz)

| | |
|------------------------|--------------|
| 0.04% THD, RL=8Ω | 0.42V / 390Ω |
|------------------------|--------------|

周波数特性 (20 Hz ~ 20 kHz)

| | |
|-------------------------|------------|
| CD/TUNER/TAPE/AUX | 0 ± 0.5 dB |
|-------------------------|------------|

RIAA 偏差 (20 Hz ~ 20 kHz)

| | |
|----------------|------------|
| PHONO MM | 0 ± 0.5 dB |
|----------------|------------|

全高調波歪率 (20 Hz ~ 20 kHz)

| | |
|---|-------|
| PHONO MM REC OUT (1V) | 0.02% |
| CD/TUNER/TAPE/AUX SP OUT (27.5W/8Ω) | 0.02% |

SN 比 (IHF A ネットワーク、入力ショート時)

| | |
|-------------------------|--------|
| PHONO MM (5 mV) | 82 dB |
| CD/TUNER/TAPE/AUX | 105 dB |

残留ノイズ (IHF A ネットワーク)

| |
|-------|
| 100μV |
|-------|

チャンネルセパレーション (VOL - 30 dB, 1kHz)

| | |
|----------------------------------|-------|
| PHONO MM (入力ショート時) | 65 dB |
| CD/TUNER/TAPE/AUX (5.1 kΩ) | 60 dB |

トーンコントロール

| | |
|--------------|---------------------|
| BASS | 可変幅、±10 dB (50 Hz) |
| TREBLE | 可変幅、±10 dB (20 kHz) |
| | ターンオーバー周波数、350 Hz |
| | ターンオーバー周波数、3.5 kHz |

コンティニューアスラウドネスコントロール

| | |
|--------------------------|-----------------|
| 最大補正量 (聴感補正カーブによる) | - 30 dB (1 kHz) |
|--------------------------|-----------------|

定格電源電圧、周波数

| |
|-------------------|
| AC 100V, 50/60 Hz |
|-------------------|

消費電力

| |
|------|
| 120W |
|------|

AC アウトレット (連動) × 3

| |
|---------------|
| トータル 100W MAX |
|---------------|

外形寸法 (W × H × D)

| |
|--------------------|
| 435 × 126 × 308 mm |
|--------------------|

重量

| |
|------|
| 7 kg |
|------|

付属品

| |
|------|
| リモコン |
|------|

単3乾電池 2本

参考仕様および外観は予告なく変更されることがございます。

故障かなと思ったら

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

| どんな状態ですか | ここをチェックしてください | こうすればOKです |
|--|--------------------------------------|--|
| 電源スイッチを押しても電源が入らない | 電源プラグの接続が不完全 | 電源プラグをコンセントにしっかり差し込みなおしてください |
| 音が出ない | 再生したいプログラムソースのインプットセレクターが正しく選択されていない | 再生したいプログラムソースのインプットセレクターを選択してください |
| | スピーカースイッチがOFFになっている | スピーカースイッチでスピーカーが接続されている端子を選択してください |
| | 接続が不完全 | 接続を確認してください |
| インプットセレクターを切り換えてもCD以外の音は出ない | CDダイレクトスイッチがONになっている | CDダイレクトスイッチを押し解除してください |
| 片チャンネルの音がでない | バランスコントロールツマミがどちらか一方に回し切られている | バランスコントロールツマミで左右の音量バランスを調整してください |
| | 接続が不完全 | 接続を確認してください |
| 低音のない不自然な再生音で、音像が安定しない | アンプとスピーカーの接続でLとRや極性(+, -)が合っていない | アンプとスピーカーのLとRや極性(+, -)を正しく接続しなおしてください |
| ハム音がでる | ピンプラグコードの接続が不完全 | ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください |
| | レコードプレーヤーのアースコードを接続していない | アースコードを本機のGND端子に接続してください |
| ボリュームコントロールを回しても音量があまり上がらない | ラウドネスコントロールがはたらいている | ラウドネスコントロールツマミをFLATの位置にセットしてください |
| ボリュームコントロールを回しても音量があまり上がらなかったり音がひずんだりする。 | 本機のREC OUT端子に接続された機器の電源がOFFになっている。 | 本機のREC OUT端子に接続された機器の電源をONにしてください。 |
| CD演奏しているときバスコントロールツマミ、トレブルコントロールツマミがはたらかない | CDダイレクトスイッチがONになっている | CDダイレクトスイッチを押しOFFにしてください |
| リモコン操作ができない | 乾電池が消耗している | 乾電池を2本とも交換してください |
| | リモコンの操作距離、角度が不適当 | 本体のリモコン受光部に対して7m以内、角度30度以内の範囲で操作してください |
| | リモコン受光部に強い日光や照明(インバータ蛍光灯など)が当たっている | 受光部に強い光が当たらないように置き場所や方向、または照明の位置をくふうしてください |

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用頂けるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

●保証期間

お買い上げ日より1年間です。

●保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間が過ぎているときは

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

●修理料金の仕組み

技術料

故障した製品を正常に修復するための料金です。

技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代

修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料

製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

別途、駐車料金をいただく場合があります。

●補修用性能部品の最低保有期間は

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年（テープデッキは6年）です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

品番、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(ヤマハAV製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お預り窓口)

| | | |
|-----|---------|--|
| 北海道 | 〒064 | 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内 TEL(011)513-5036 |
| 仙台 | 〒983 | 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL(022)236-0249 |
| 新潟 | 〒950 | 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F TEL(025)243-4321 |
| 首都圏 | 〒211 | 川崎市中原区木月1184 TEL(044)434-3100 |
| 浜松 | 〒435 | 浜松市西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 TEL(053)465-6711 |
| 名古屋 | 〒454 | 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F TEL(052)652-2230 |
| 大阪 | 〒565 | 吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内 TEL(06)877-5262 |
| 広島 | 〒731-01 | 広島市安佐南区西原6-14-14 TEL(082)874-3787 |
| 四国 | 〒760 | 高松市丸亀町8-7 ヤマハ(株)高松店内 TEL(0878)22-3045 |
| 九州 | 〒812 | 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL(092)472-2134 |

お客様ご相談窓口

(ヤマハAV製品に対するお問い合わせ窓口)

| | | |
|-----|------|---|
| 東京 | 〒108 | 東京都港区高輪2丁目17-11 TEL(03)5488-5491 TEL(03)5488-5492 |
| 名古屋 | 〒460 | 名古屋市中区錦1丁目18-28 TEL(052)232-5740 |
| 大阪 | 〒556 | 大阪市浪速区難波中1-13-17 なんば辻本ニッセイビル TEL(06)647-6411 |
| 本社 | 〒430 | 浜松市中沢町10-1 AV機器事業部 お客様ご相談センター TEL(053)460-3409 |

YAMAHA

ヤマハ株式会社

〒430浜松市中沢町10-1

AV機器事業部

営業部

TEL(053)460-3451

品質保証室

TEL(053)460-3405

住所および電話番号は変更になることがあります。